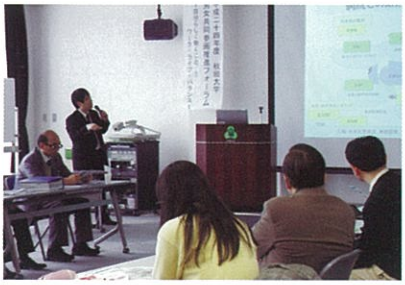
秋田大学　男女共同参画推進室
# coloconi Newsletter
2013.3
vol.17

今年度、コロコニでは一昨年発行し好評だった「コロコニガイドブック」のＱ＆Ａ集版を発行しました。
そして、ワーク・ライフ・バランスを保つための様々な制度を利用しやすい環境のため、手形地区および本道地区において職場環境や育児・介護との両立について話し合う機会を設けました。
今後、ひとりひとりが、自らが望むワーク・ライフ・バランスを実現できる環境作りや制度の周知を進めていきたいと思います。

## 平成24年度 秋田大学男女共同参画推進フォーラムを開催しました



３月８日（金）、本学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー２階の大セミナー室に於いて「平成24年度　秋田大学男女共同参画推進フォーラム　－自分らしく働くこと　ワーク・ライフ・バランス」を開催しました。
今回のフォーラムは、秋田大学内の各部局ごとによるワーク・ライフ・バランスをテーマにした話題提供と、参加者全員によるフリートーキングの２部構成で行いました。

話題提供は、各部局の現状報告とワーク・ライフ・バランス実現のための取り組みや今後の課題についての発表がありました。参加者は各部局ごとの発表に真剣に聴き入っていました。
話題提供とフリートーキングの間に、育児や介護に関するクイズを実施しました。「育児の日」や「介護の日」に関するクイズには、みなさん苦戦していたようでしたが、笑顔が見受けられ、和やかな雰囲気となりました。
フリートーキングでは「就学前は手厚いが、学童保育などその後の支援も検討してほしい」「介護についても育児同様に、介護と仕事を両立できるような環境整備などの支援があってもよいのではないか」などの活発な意見が出されました。

## 本道地区にてコロコニトーキングを開催しました

平成24年12月11日(火)本道キャンパス内の基礎医学研究棟　第一会議室において、第2回コロコニトーキング～ワーク・ライフ・バランスのための柔軟な支援について～を開催しました。
当日は看護部をはじめ、附属病院や医学系研究科の教職員の方々に多数ご参加いただきました。　はじめに池村好道副学長から、コロコニトーキングを開催することで、秋田大学で働くみなさんの率直な意見や要望を聞き、今後の男女共同参画の取り組みに活かしていきたい旨のお話がありました。　その後、11月に全教職員に配付した「コロコニガイドブックQ&A集」の内容に関するウォーミングアップクイズ、フリートーキングに入りました。

参加された方からは、「ガイドブックやQ&A集の配付、休暇制度の周知ポスターなどによって、休暇に関する相談が増えた」、「休暇制度については周知されてきたが、いまだに部局によって温度差があるように感じる」、「休暇制度の利用予定はあっても、急な日程変更等のシフト調整が難しい」など、活発な意見や要望が出され、今後の検討課題となりました。

# イクメン・ケアメン　インタビュー

秋田大学広報誌「アプリーレ」の最新号に、秋田大学における男女共同参画の取り組みが特集されました。
特集記事の中で、男性の育児・介護経験者へのインタビューを紹介しました。
アプリーレでは紹介しきれなかった部分を紹介します。

**※イクメン…積極的に育児を楽しむ男性　※ケアメン…積極的に介護を担う男性**

育児や家事に積極的な男性が増え、「イクメン」などの言葉が聞かれるようになって久しいですが、近年、介護に携わる男性の数も増えてきています。育児同様、女性の仕事と思われてきた介護ですが、現在、家族介護者の3人に1人が男性です。

秋田大学では家族の介護を行う教職員がワーク・ライフ・バランスを保ちながら仕事を継続できるように、支援制度を設けています。

アプリーレでは、お母様の介護を経験した医学系研究科、阿部寛教授から、秋田大学の介護支援制度などについてインタビューを掲載しました。ニュースレターでは、介護中の心境の変化や仕事との両立について伺いました。

医学系研究科　形態解析学・器官構造学講座
**阿部　寛** 教授

秋田県大館市で一人暮らしをしていたお母様の遠距離介護を経験。現在、お母様は94歳で、秋田大学本道キャンパス近くの施設へ入所されているとのこと。

## Q：お母様の施設入所時と入所後の心境の変化はありましたか。

阿部：老人ホームへの入所を決心する際に、母の希望であった在宅でなくなることで後ろめたさを感じました。しかし、今はプロのヘルパーさんらと役割分担をして、多人数でお世話をしていることになります。優れた介護をしていただいているので、後悔はしていません。

## Q：介護と仕事の両立についてお聞かせください。

阿部：私の住む職員住宅と職場近くの施設に入所したことで、在宅に準ずる状態であるので、家族の義務と仕事との両立が可能となったのだと思っています。
また、種々の制度による支援が両立の一因でもあります。介護保険では介護サービス料金の自己負担は10%、健康保険では自己負担が10%であり、さらに後期高齢者医療限度額適用・標準負担額減額制度により入院時の負担がさらに少なくて済みました。このような支援により自己負担が低く抑えられているから、母は老人ホームに入所でき、プロのヘルパーさんによる介護が受けられるのだと思います。

秋田大学男女共同参画推進室コロコニホームページで配信しているコロコニだより（ブログ）で、阿部教授より寄稿された介護にかかわるエッセイを掲載しております。
ぜひ、ご覧ください。

**「コロコニ」で検索♪♪♪**

今年度育児休業を取得した秋田大学附属病院の看護師の吉田さんと小野さん。
アプリーレの誌面では、育児休業を取得するきっかけや育児休業を取得しての心境の変化などをお子様との写真とともに語っていただきました。
ニュースレターでは、より具体的に休業中や復職後の育児との関わり方などについて聞いてみました。

**Q1. 育児休業中の家での家事・育児の分担について教えてください。復職後は継続していますか。**
**Q2. 育児休業取得前、また休業から復職される前に心掛けたこと、準備したことなどを教えてください。**
**Q3. 育児休業取得について、印象に残る出来事がありましたら教えてください。**

**吉田　清人** さん
秋田大学医学部附属病院
看護師
第一子出生時に1ヶ月の育児休業を取得。

| | |
|---|---|
| A1 | 昼夜問わず子どもの世話をする妻をできるだけ休ませるようにしていました。掃除やゴミ出し、オムツ交換や子どもをお風呂に入れるのは、育休取得時から現在も継続してやっています。 |
| A2 | 休業前は、育児に参加して妻の負担を減らそうと考えていました。復職後もできる限り育児に参加し、妻の負担を減らすと共に、子どもとのふれあいを大切にしていこうと思いました。 |
| A3 | 家族で百日祝い、お食い初めをしました。日々の成長を実感することができた1ヶ月間でした。 |

**小野　拓也** さん
秋田大学医学部附属病院
看護師
2児のパパで、第二子出生時に1ヶ月の育児休業を取得。

| | |
|---|---|
| A1 | 長男の保育園の送り迎えと料理を担当していました。料理は好きなので、全般的に引き受けました。<br>現在も、休みの日は長男の送り迎えをしています。料理も継続しています。 |
| A2 | 休業前は、休みをくれた職場のみなさんに迷惑をかけないように心がけました。<br>復職前は、体調管理と生活リズムに気をつけました。 |
| A3 | 毎日が忙しく、あっという間に過ぎた感じの1ヶ月間でした。 |

アプリーレではご紹介できませんでしたが、本学事務職員にも子育てと仕事を両立しているイクメンがいました！！

**佐々木　直樹さん**
総務課　主査
一児のパパ（一歳半）

**これからパパになる方へ**

初めての子どもでわからないことが多くあり困ったので、職場の協力があればぜひ短期間でも育休を考えてみてください！

**●育児休業は取得されていないということですが、育児休業を取得しようと考えたり、奥様と相談されたりしましたか。**

佐々木さん：育児休業の取得について少し考えましたが、妻からも休業を取得してほしいとも言われませんでしたので、妻と妻の実家にお世話になろうと思いました。

**●ご家庭では実際に、どのような育児を担当されていますか。**

佐々木さん：保育園へ送って行ったり、お風呂に入れて寝かしつけたり、夜中に起きたときにおむつを替えたりミルクを作ったりしています。保育園の迎えは実家にお願いしています。職場も理解があり、協力的なので、子どもの急な病気の時なども休みが取りやすく、とてもありがたいです。

**●ご自身ではイクメンだと思いますか。**

佐々木さん：それなりに育児をしていると思いますが、皆さんがどれくらいされているかわからないので、？？？ですね。

**●子育てにかかわることで嬉しかったこと、大変だったことを教えてください。**

佐々木さん：日に日に成長していく姿を見ていられるのはたいへん嬉しいです。まだ上手く話せないので、泣いていて熱があったりすると、どこが具合が悪いのかも分からず困りました。最近はだいぶ慣れてきましたが…。

## 平成24年度 優秀女性研究者表彰を行いました

さる平成24年12月6日(木)、秋田大学優秀女性研究者表彰が行われ、学長から表彰状授与と記念品の贈呈がありました。受賞したのは、国際交流センター准教授の牲川波都季先生と工学資源学研究科附属環境資源学研究センター助教の福山繭子先生の2名です。

先生方の受賞理由や研究内容については、ホームページ等でご紹介させていただいておりますので、今回は先生方に、上司や同僚、家族の理解・協力についてうかがいました。

国際交流センター

**牲川　波都季** 准教授

国際交流センターでは、授業のほかさまざまな留学生受入・派遣プログラムのコーディネートを担当しています。国際課スタッフに支えられ、業務の合間を縫って細々と研究を続けてきました。同居の家族は連れ合い一人で、入籍していない事実婚カップルです。私がアメリカに単身赴任すると突然宣言したときも反対せず、研究の進展を心から望んでくれる理解者です。連れ合いの両親と私の両親も、仕事中心の私の生活を応援してくれており，特に私の母は、よりよい研究業績を上げるよう常に発破をかけ続ける偉大な存在です。

環境資源学研究センター

**福山　繭子** 助教

普段は女性であることを意識して仕事をする機会があまりありません。ただ、海外での研究調査では、国によって女性はスカーフが必要となったり、鉱山によって女性の入鉱が制限されることがあります。そのような場合は現地の研究者にアドバイスを受けて、その国の慣習に適した配慮をしています。このように女性であることで配慮が必要な状況でも周りの方々の理解と協力のおかげで研究を進めることができています。

## 平成24年度北東北国立3大学連携推進会議 男女共同参画合同シンポジウムに参加しました

平成24年12月21日、弘前大学にて、平成24年度北東北国立３大学連携推進会議　男女共同参画合同シンポジウム「北東北地域大学間連携による男女共同参画の推進に向けて」が開催され、渡部室長をはじめ、推進室スタッフが参加しました。

弘前大学学長の開会のご挨拶に続き、独立行政法人科学技術振興機構科学技術システム改革事業　プログラム主管の山村康子氏が「大学における男女共同参画と女性研究者支援について」と題して基調講演を行い、女性研究者の現状や今後の課題、諸大学の取り組み等が紹介されました。

後半は、「北東北地域の男女共同参画の推進に向けて　秋田大学、岩手大学、弘前大学のさらなる連携を拓く～共通する取り組みと課題からみえるもの～」のテーマでパネルディスカッションが行われました。岩手大学の菅原悦子男女共同参画推進室長、弘前大学の日景弥生男女共同参画推進室長、本学の渡部育子男女共同参画推進室長の３人がパネリストを務め、各大学の取り組みの紹介後、共通課題である「両立支援」「県内連携」「次世代育成」について、情報交換・意見交換をしました。

発行：国立大学法人秋田大学男女共同参画推進室
〒010-8502 秋田市手形学園町１－１
http://www.akita-u.ac.jp/coloconi/